奈良県議会議員

かめだ忠彦県政活動報告

No.1 平成28年2月
発　行／かめだ忠彦事務所
〒634-0804 奈良県橿原市内膳町4丁目4-1-1008
TEL.0744−20−3334
FAX.0744−20−3335
HP http://www.kameda8010.com
Facebook https://www.facebook.com/kameda8010com

平成27年９月議会での一般質問（抜粋）　9月25日

初めて一般質問をさせて頂きました。　全文はホームページでご覧になれます

Q スポーツを通じた南部・東部地域の振興について

私は、スポーツの振興を活動の一つの柱としております。先日のラグビーワールドカップの日本選手の活躍などに見られる国民の一体感や感動は、まさにスポーツの醍醐味であり、2020年のオリンピック・パラリンピックに向けて、奈良県出身のトップアスリートを育成する取り組みをさらに進めることは重要であります。

新たに、山の日が国民の祝日になることを契機として、自然豊かな南部・東部地域のより一層の振興を図ることが必要と考えます。そのためには、スポーツを通じた地域振興の取り組みが効果的であると考えますが、知事のご所見をお聞かせください。

A 答弁　－荒井知事－

スポーツは議員お述べのとおり、地域振興の重要な要素であると考えてきております。特に、南部・東部地域におきましては、議員お述べのように、豊かな自然環境を生かしたスポーツイベントの開催とスポーツ合宿の誘致を２本柱に据えて、さまざまな事業を展開しようとしております。

今後、スポーツを通じた南部・東部地域の振興に向け、地元市町村や関係団体とも一層連携を広げるとともに、県内外や海外にも情報発信することなどにより交流人口の増加につなげていきたいと考えております。スポーツを核にして、観光などに発展する地域振興を図っていきたいと考えているところでございます。

Q 橿原、高取、明日香地域の観光振興について

★世界遺産登録への取り組みについて

奈良は古代において日本の首都的な役割を果たし、政治、経済、文化の中心として栄えました。中でも、私の地元である橿原市、高取町、明日香村は、日本人の心のふるさととされる飛鳥京跡、藤原宮跡をはじめとした、遺跡や寺院跡、古墳などが多く残り、古事記や日本書紀に登場する歴史の舞台や、万葉集に詠まれた風景を目の当たりにできる歴史文化遺産の宝庫です。

橿原、高取、明日香地域の魅力を高め、観光振興につなげるためには、飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群の世界遺産登録が重要と考えますが、その登録に向けて県ではどのような取り組みを行っておられるのかお聞かせください。

A 答弁　－荒井知事－

日本の始まりを感じ、この国の成り立ちをたどることができる歴史遺産として、橿原市、明日香村、桜井市に点在する20の関連遺産群が世界遺産の候補となっております。現在この構成資産が、国際的交流下での日本国の誕生というコンセプトに合うように、国際的な評価、構成遺産の保護措置の充実に加えて、地元機運の醸成の３つの観点から、世界遺産登録に向けた取り組みを行っているところでございます。

今後も、世界遺産登録に向けまして、県と関係市村であります橿原市、桜井市、明日香村で構成されております世界遺産登録推進協議会を中心に積極的な取り組みをさらに進めてまいりたいと考えております。

★民泊に対する取り組みについて

近年、体験交流型の観光ニーズが高まっており、全国各地でさまざまな取り組みが進められています。本県でも明日香村をはじめ、橿原市、桜井市、高取町が連携し、修学旅行やインバウンドなどの教育旅行誘致に取り組まれています。飛鳥の民家ステイ、いわゆる民泊で受け入れている教育旅行は、感受性の高い若い年代の方々の記憶に深く残ることで、将来再び明日香村を訪れてみようという意識を持ってもらえることを実感いたしました。

現在、橿原市、明日香村等で実施されている民泊は、橿原、高取、明日香地域の観光振興に有効な取り組みの一つと考えます。今後、県では、橿原、高取、明日香地域の観光振興にどのように取り組んでいかれるのかお聞かせください。

A 答弁　－荒井知事－

橿原、高取、明日香は、国の始まりの地として、数々の文化遺産に代表される歴史的風土が残されています魅力ある観光地でございます。

県では、修学旅行誘致の取り組みといたしまして、夏休み期間に首都圏や福岡県の先生方を奈良にお招きして、モニターツアーと呼ばれるものを実施しております。また、海外からのインバウンドにおきましては、台湾からの教育旅行が急増しておりますことを受けまして、今年度の台湾教育旅行商談会には、同地域における民泊実施主体でございます飛鳥ニューツーリズム協議会にも参加いただいております。

今後、橿原市、高取町、明日香村と連携をしながら、観光客の周遊、滞在につながる取り組みを積極的に進めますとともに、近年増加しておりますゲストハウスや古民家一棟貸し宿泊施設の情報発信なども充実、強化していきたいと考えております。

Q 農村の活性化について

本県の農村は、美しい景観や豊かな自然、歴史、文化など農業、農村の営みによって培われてきた魅力ある空間が形づくられております。特に、私の地元、香具山の山麓に広がる地域は、現在でも水田農業による四季折々の変化など美しい景観が維持されており、日本の原風景とも言えるすばらしいところです。

しかしながら、近年、農家の高齢化が進み、また、担い手の不足などによる農業の継続が難しくなってきたことから、耕作放棄地が増大するなど農村景観の荒廃が進みつつあり、将来さらなる農村景観の荒廃が危惧されるところです。

日本の原風景とも言える美しい農村景観を守るためには、農村の活性化が必要と考えますが、県ではどのような取り組みを進めておられるのかお聞かせください。

A 答弁　－荒井知事－

議員お述べのように、本県の農村は都市近郊でありながらも、農業や農村の営みを通じて継承されてきた、美しい田園景観や豊かな自然、歴史文化、新鮮でおいしい農作物など、都市にはない魅力がまだ豊富に存在しておるものでございます。これら農村の魅力を将来に継承し、有効活用していくためには、継続的に農業生産活動が行われることはもちろんでございますが、農村が持つ価値や魅力を、我々、県民、住民が再認識し、農村地域の活性化を重要な事項として図っていくことが、地方創生の観点からも重要と考えております。農村の活性化がないと、やはり地域の潤いがないというふうにも考えております。

そのため、県では集落や市町村、農業団体の皆様とともに、農村地域づくり協議会を設置しております。

農村の魅力情報を発信する奈良県農林ジャーナルを発行するなどの取り組みも進めてまいりたいと思っております。

Q なら食と農の魅力創造国際大学校の組織体制について

なら食と農の魅力創造国際大学校、通称NAFICは、今までの農業大学校を再編し、農業の担い手を育成する学科に加えて、新たに食の担い手を育成するフードクリエイティブ学科を設け、食と農のトップランナーを育成するという取り組みで、これは奈良にうまいものなしの払拭に向けた荒井知事の取り組みの集大成だと思います。

校長の選定理由はどういったものかお聞かせください。また、教職員の確保の見通しなど、来年４月の開校に向けた組織面での準備の状況についてあわせてお聞かせください。

A 答弁　－荒井知事－

このNAFICといわれる学校につきましては、今までの農業大学校を再編して、アグリマネジメント学科とするとともに、新たにフードクリエイティブ学科を設置

し、経営感覚に優れた食と農のトップランナーを育成することを目的にしております。そのためには、県職員だけでなく、専門的知識、経験を持ち、高い志を有する民間人の登用が必要であると判断してきたところでございます。

今後は、校長内定者である平松氏のもと、経営感覚にすぐれた食と農のトップランナーを育成するため、学生募集に全力を注ぐとともに、開校に向けた諸準備を円滑に進めてまいりたいと考えております。

Q 全国学力・学習状況調査について

この８月末に、本年４月に実施された全国学力・学習状況調査の結果が発表されました。

本県の子どもたちの結果は、小学生では昨年度より向上し、中学生ではやや下がっているようです。また応用力や活用力に課題が見られることや、理科については全国平均を下回り、前回よりも成績が振るわなかったということも聞いております。

本年４月に実施された全国学力・学習状況調査の本県の調査結果をどのように捉えておられるのかお聞かせください。また、県として、今後どのように取り組んでいかれるのか、あわせてお聞かせください。

A 答弁　－吉田教育長－

私は、全国学力・学習状況調査の結果を、子どもは、教師が学校を映し出す鏡として受けとめて、一人ひとりの教師が学校における教育指導の充実や学習状況の改善に役立てることは、最も大切であると考えております。

さらに今回、小・中学校ともに全国平均を下回りました理科の調査結果からは、正答率の高い学校ほど観察、実験を行う頻度が高い傾向が見られました。そのことから、やはり、今後は教員を対象とした実技研修などを実施いたしまして、観察、実験を多く取り入れ、結果を整理、考察させる、そんな授業改善につなげてまいりたいと考えております。

Q 教員の大量退職への対応について

教員については、大量退職、大量採用の時代が続いています。

今後の退職予定者も含めて、ベテラン教員がこれまで培ってきた知識や能力、技量を若い世代に継承するため、県ではどのように取り組んでおられるのかお聞かせください。

A 答弁　－吉田教育長－

議員お述べのとおり、教員の大量退職、大量採用が続き、50歳代と20歳代を合わせると教員の全体の３分の２を占めている状況の中、複雑多岐にわたる教育課題に対応するためには、経験豊かな教員の知識や技能を中堅や若手教員に継承する、そんな体制づくりが重要と考えております。

豊かな経験を次世代に継承する観点から、指導力のある退職教員を再任用教員として積極的に活用することとし、初任者研修の指導教員としても任用をいたしております。

今後も大量退職が続き、当分の間は年齢層に偏りのある教員構成が続くことから、ベテラン教員の指導力を最大限に生かし、次世代を担う教員の養成に努めてまいります。

その他、9月議会での決定事項
奈良県議会「議員報酬１割削減案」
可決で全国３位の“低給”実現

奈良県はもっと輝ける。

活動報告

5月

18日／NPO和装教育国民推進会議・総会（霊山寺）

23日／自衛隊父兄会中和支部協議会総会（内膳町自治会館すみれホール）

7月

21日／総務・警察委員会
県内研修
（橿原総合庁舎屋上）

27日／観光振興対策特別委員会
県内視察に地元議員として同行
（奈良文化財研究所藤原宮跡資料室）

8月

5日／南部東部地域振興特別委員会 県内視察
（大淀町　クリーンエナジー奈良　吉野発電所）

1日／曽我町夏祭り（曽我町営農スポーツ広場）

5日／南部東部地域振興特別委員会 県内視察

5日／南部東部地域振興特別委員会 県内視察（下市木工舎「市」）

7～9日
奈良県議会議員
野球クラブ（静岡）

23日／青年団柔道大会/奈良県予選（下市町体育館）

9月

19日／橿原市招待親善バレーボール大会（橿原市中央体育館）

10月

3日／曲川町秋祭り
（八幡神社）

8日／なら食と農の魅力
創造国際大学校
安倍校舎竣工記念式典

26日／総務警察委員会県外調査（島根）

11月

8日／飛鳥リレーマラソン2015（橿原運動公園）

12月

29日／内膳町内にて年末のお餅つきに参加

2日／自民党橿原市支部女性局研修会（京都）

ごあいさつ

日頃より、かめだ忠彦に対しまして温かいご支援を賜り心より感謝申し上げます。

昨年は皆様のご支援を頂戴し、奈良県議会議員として県政に送っていただき、私にとって大きな節目となる年でした。

奈良県の発展は、中南和の核となる橿原市・高市郡の発展にかかっていると思いますので、誘客や教育の観点からも、スポーツ・文化の振興には特に力を注ぎ、「住んでよし・働いてよし・訪れてよし」を実感できるよう取り組む決意です。

今後も初心を忘れることなく、「謙虚に・一途に・前向きに」をモットーに頑張ってまいります。

引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

かめだ忠彦

＜プロフィール＞

1972年９月26日生まれ　43歳

学歴　平成7年3月　天理大学体育学部体育学科卒業

職歴　平成7年4月～平成10年3月
　奈良県内高等学校・中学校　保健体育講師
平成10年4月～平成26年12月
　衆議院議員　田野瀬良太郎、
　衆議院議員　田野瀬太道　公設第一秘書
平成27年4月
　奈良県議会議員（橿原市・高市郡選挙区）

役職　総務警察委員会委員
南部東部地域振興対策特別委員会委員
自由民主党橿原市支部　支部長
橿原市サッカー協会副会長